



# 日高山脈博物館だより

## HIDAKA MOUNTAINS MUSEUM NEWSLETTER

日高山脈博物館は「ジオ・ミュージアム」  
道内唯一の地質と岩石の登録博物館！

通算 第78号

2023. 2.

不定期  
学芸員  
コラム

### 日高のジオサイト紹介②

## なみだの滝近くにある二ニウ層群と蝦夷層群の不整合

北海道や日高山脈の形成を経る、特徴的な地質の日高に数あるジオサイトの1つを紹介します。

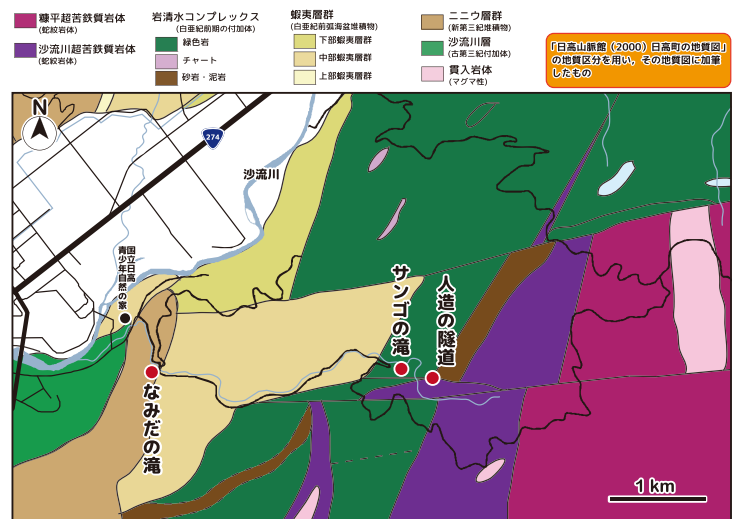
前回に続き、さんごの沢（三号の沢）のジオサイトを紹介します。

右下の地質図によると、三号の沢は、1,600 万年ほど前に形成された堆積岩（二ニウ層群）、1 億年ほど前に形成された堆積岩（蝦夷層群、主に中部蝦夷層群）、さんごの滝の岩壁である岩清水コンプレックスの緑色岩や砂岩泥岩、クロム鉱石を地下深くから持ち上げてきた蛇紋岩などが分布しています。なみだの滝は、三号の沢に沿ってのびる林道を 10 分程度歩くと到着します。なみだの滝は、二ニウ層群の礫岩砂岩互層の地層の上を流れてきていますが、そのすぐ近くでは、二ニウ層群と蝦夷層群の境界を観察することができます。なみだの滝の近くの蝦夷層群は、おおむね砂岩や泥岩で形成されていて、なみだの滝の二ニウ層群の礫岩とは、地層を構成している粒子の大きさの違いが一目瞭然と観察しやすい特徴もあります。

このジオサイトで観察される二ニウ層群は 1,600 万年ほど前、蝦夷層群は 1 億年ほど前にそれぞれ形成されたと考えられています。この2つの地層の間には、その間に堆積した地層は確認されていません。このように、重なりあう地層の間に、大きく時代の連続性を欠くような状況関係を「不整合」といいます。三号の沢で観察される、二ニウ層群と蝦夷層群の不整合は、およそ 8,000 万年以上という、気の遠くなるような時間の記録が、地殻変動によって失われたことを示しています。この間に起きた出来事としては、**[1]** 当時の海（およそ 1 億年前の海。堆積していた場所は、比較的深い海で、「エゾ海盆」とも呼ばれています）の中で、蝦夷層群の地層が堆積する、**[2]** 蝦夷層群が堆積していた当時の海が隆起して、堆積していた地層が浸食される（海が陸になった）、**[3]** 陸地が再び沈降したことや海進などによって、新たな地層（二ニウ層群）が堆積し始めた、ということが考えられます。



なみだの滝近くで観察される二ニウ層群と蝦夷層群の不整合。ここでは、礫岩（二ニウ層群）と砂岩（蝦夷層群）であるので、見た目にも観察がしやすい。



### ！ 「ジオサイト」とは…？

特徴的な地球科学的価値のある地質（地層、岩石、鉱物、化石など）や地形が見られる場所や、それを前提とする、地質や地形が関係している生物の生態や人とのかかわり（文化など）を示す場所のことです。

日高山脈博物館のホームページ上でも掲載しています。こちらでは、写真などがカラーとなっています。ぜひ活用下さい。⇒ ホームページ (<http://www.town.hidaka.hokkaido.jp/hmc/>) の新着情報からどうぞ。